

スコール・マスターズ通信

第1号（創刊号）
平成15年10月1日

あいさつ



社団法人スコール家庭教育振興協会
会長 永池 榮吉

現在の日本は、時代の大転換期を迎えています。それはわが国に限らず、世界的な規模の変革の大波が、社会の諸制度を襲っている現状です。こうした場合、人々に求められるのは、情報の真偽を見分ける眼力です。何を残し、何を捨てるか。

その意味で、いまの日本が1980年代のアメリカ同様、家庭的価値を軽んじる風潮に流れていることは、実に愚かしいことです。

大統領選挙の中で、家庭的価値の復活

を民主党までも掲げなければならないほど、惨憺たる状況になったアメリカの家庭の轍を踏まないためにも、健全な良識の復活が求められます。

扇子は、“要”があって始めて使用されます。“要”の壊れた扇がばらばらになるのは当然です。家庭は、社会における要のような存在です。家庭の崩壊は国家社会の崩壊を意味します。家庭は人間が長い年月をかけてつくり上げた、貴重な生活文化の一つだといって良いでしょう。

人間は人間である前に、動物であり生物です。人間世界の都合を超えた、この“生き物の論理”に立った視座で、私たちのあり方を見直す必要があるのではないのでしょうか。

その意味で、この「マスターズ通信」が、男の良識による家庭つくりのため、大きな役割を果たすことを期待します。

発刊にあたって

スコール・マスターズ 代表幹事 村下 三郎

昨年10月、新生「スコール・マスターズ」としてスタートし一年。改めて年月の早さを実感いたします。

スコール・マスターズ設立一周年の節目の折、皆様への情報伝達の一環として、この「マスターズ通信」を発行する運びとなりました。

スコール運動は我々男性、そしてご婦人の方々も一緒に協力して推し進めるべきでございますが、現状はどうしても私共男性側が劣勢であることは明白かと存じます。本通信がこの差を縮小し両輪としてのスコール・マスターズが一層発展するための一助となればと念ずる次第です。

ご承知の通り「入会案内」も出来上がり、これに図示のとおり、全国8地区にて各リーダーを中心に活動しておりますが、当面は是非共この地区活動をより活発化いたしたいと存じます。

本紙に対しては、皆様からも大いにご意見ご提言をいただき、内容向上にお互いに努力いたしたいと存じます。

前進と飛躍を共に

スコール・マスターズ 副代表幹事 三橋 克興

マスターズはお蔭様で創立一周年を迎えることができました。

平成15年度総会で重要課題を掲げ、これに基づき次のような活動を進めてまいりました。

「こころの添木」の学習をさらに発展的に進め、永池会長の解説テープを4月より配巻。5月には将来の発信基地の構築を踏まえ、八王子に事務所を開設。6月には新規会員の増強推進のため「入会案内」を完成し、会員数も200名に近づき、今後地区リーダーの協力を得、ホームページとメール網を構築し、私的構想段階ではありますが、3年後1000名の会員規模を目指したいと思っております。また全国的な活動を展開するため「地区交流会」をスコール本部と一体になり、年内に実施してまいります。

マスターズの基盤の構築に務め、その存在価値を広く世の中に浸透し、前進と飛躍を共に21世紀の新しい日本人の価値観を創り出してまいります。

今後共会員皆様の一層のご支援をお願いする次第であります。

スコーレ・マスターズ活動報告

平成15年4月～平成15年9月

講師の加藤先生は、「政策の提言は、単に唱えるだけでなく行動が伴わなければいけない」「個々人は、現実を見据えて自分の夢を持つ事が大事だ」と、力強く述べられました。

若くして行動力のある先生のお話に、参加者一同、日本の今日のあり方、そして個人として自分を磨く必要性を、改めて感じ取りました。

「生きがい講座」大成功！

事務局長 小俣 富雄

去る7月12日、マスターズ設立後、初めての「生きがい講座」を新宿住友ビルで開催しました。講師に、構想日本代表の加藤秀樹先生をお招きし、「変革の潮流日本再生のキーワードは」と題してご講演いただきました。



当日の会場風景

以前は、ご婦人だけの参加も認めておりました。

マスターズは男性の会ですので、今回は男性中心で動員することにしました。その結果、当日は男性84名、女性28名、合計112名の方が参加され、定員120名の席がほぼ満席で、盛会となりました。

「入会案内～生き方の美学を求めて、感性を耕す～」が完成しております。既に地区リーダー宛100部を配送完了しており、講座等での配布も始まっています。ついては、パンフのご感想なり、ご請求については事務局宛お気軽にお知らせください。

omata-thy@nifty.com (小俣)

「こころの添木」解説テープ配巻

マスターズ会員向けに、4月から配巻されているこのテープは、永池会長ご自身が朗読及び解説をされています。首都圏では、人生学講座で「こころの添木」を教材として学習しているのに対し、地方ではその機会がないため、それに代替するものとして、今年度の事業計画に掲げ実現させたものです。

テープは、全23巻(45テーマ)で、月1回2年間配巻されます。自宅で聴いたり、車の中、電車の中など利用方法は様々です。聴く度に、新たな思いや決意が付き、今更ながら「こころの添木」が、我々の生きる指針を支える添木の役割を果たしてくれていることを、実感させられます。

スコーレの基本となる教材ですので、マスターズ会員だけでなく、一般会員へもバラ売りで配巻されています。

本の精読と共に、解説テープの聴取を是非ご継続ください。(事務局 小俣)

「今後の行事予定」

マスターズ事務局

今年度下期の行事予定をお知らせ致します。詳細は別途ご案内文書をご覧ください。

下期「マスターズ研修」

<日程> 10/12, 11/9, 12/14, 1/18, 2/15, 3/14

<場所> 協会本部研修室

地区交流会

<主旨> 協会本部及び会員相互の親睦

<首都圏> 12/14(日)17:00

<地方> 日時未定

地区リーダーと日程を調整し随時実施。

マスターズ役員も参加。

川上杯懇親ゴルフ

<日程> 10/24(金) ゴルフ及び宿泊

10/25(土) 朝現地解散

<ゴルフ場> 箱根カントリー倶楽部

<宿泊> 箱根湯本ホテル

北 関 東



川田昌孝

北関東地区の8月20日現在の会員数は35名<栃木22名、茨城(埼玉)13名>となっています。活動状況としては、「生きがい講座」5名受講、「人生学講座」3名受講(内1名は体験受講)など首都圏にて開催の講座への積極参加を呼びかけています。しかし東京までは-----の声が多くありますので、地方でのメニューを充実させたいと考えております。

北関東地区は栃木、茨城、埼玉、宮城と広範囲にまたがるため、まだまだ周知が充分ではありません。各地区との連携をとりながら如何に普及活動を図るかが課題です。抱負としては会員100名規模を1次計画とし、創立25周年の年を地区での講座開催元年にしたいものです。(aea03426@nifty.com)

東 海 中 部



小寺房征

私は、1944年 岐阜県揖斐郡坂内村、揖斐川の上流に生まれました。山を愛し、川を愛するものです。今は、岐阜市に住んでいます。織田信長で名高い金華山の頂上に聳え立つ岐阜城そのふもと。岐阜市の中心を流れる長良川、そこで7月の最終土曜

日と8月の最初の土曜日に、全国でも名高い花火大会が開かれます。2つの花火大会では10万発以上の花火が打ち上げられます。岐阜の夏の楽しいひと時です。翌日は、ものすごいゴミの山です。各種の団体(スコールも含む)が6千人以上の人が集まり大掃除をします。岐阜の郷土を愛する人の集まりです。スコールでは、自分を愛することを学びます。自分を愛し、郷土を愛し、日本を愛し、地球を愛するそのような人でいっばいになればと思います。東海中部スコール・マスターズでは、地中に根を張っているところです。今に芽を出し大きく育っていきます。現在は、その準備中です。(len06362@nifty.ne.jp)

北 陸



近藤 悠

再スタートして10ヶ月が経過した現在、北陸地区の会員数は富山メンバーの努力の結果、28名(富山22名、石川6名)となりました。しかし、「地区活動」としてご報告できる具体的な活動がなく、地区リーダーとして忸怩たるものがあります。

当地区での活動を顧みるとき、3年前、堀田・本の両氏を中心に、毎月1回、日曜日の早朝研修に出席した

男性会員が、席を移し朝食をとりながら、情報交換、親睦を図る運動を1年間ほど続け、その成果が、平成10年の金沢ミドル宿泊研修(実行委員長 本氏)の開催となりました。その後、残念ながら「何をを目指すか」が不透明なこともあり、活動は中断しましたが、地方活動のひとつの成功事例だったと思います。

今後、マスターズ北陸地区として、どのような活動を目指すのか。メンバー全員の協力、そして本部の知恵をいただきながら、時間をかけ工夫したいと考えています。(hiroshi@kondou.com)

近 畿



伊藤範昌

大阪の伊藤です。趣味と言っては何ですがペンシルバルーンと申しまして風船細工で動物や花を作って地域の子供さんに喜んで頂いております。私は数年前、永年務めた会社が倒産した為、外資の会社に転職しました。そのせいもあってか、私達を取り巻く環境が今後益々欧米化されてしまうのではないかと思うようになりました。そして、どの様な環境に

おいてもこころ豊かに生きていける様、生き方の実力を磨いておく必要があると思います。関西エリアではこころの添木テープを定期聴講されている方々からの反響が少しずつ届く様になりました。今後皆様の貴重なご意見や情報を交換して頂ける様な集いの場を持ちたいと考えております。新規の定期聴講ご希望の皆様も広く募って行きたい所存です。(now@aurora.ocn.ne.jp)

中 国



横田将良

スコール・マスターズ第1回会員総会に出席させて頂きました横田将良でございます。

中国地区におきましても、早速21名の入会がありました。その中半数余の12名が早朝研修の体験者です。

創立23周年記念早朝研修には永池会長を広島にお迎えすることができました。当日、壮年24名中ご夫妻での出席が14組あるという喜ばしい結果となりました。

長い間、早朝研修は、壮年は私一人という状態でしたが、マスターズ結成の動きが始まった頃から日曜日の早朝研修にボツボツ壮年の姿が見えるようになり、最近では3、4名の方々が集われることを心強く思っています。会長の「こころの添木」のテープを車の中で割り返し聞いておられる人もあるようです。小川本部長にも御来広頂いております昨今、マスターズの勢いが地方にも広がっていくよう願ってやみません。(cq17632@nifty.com)



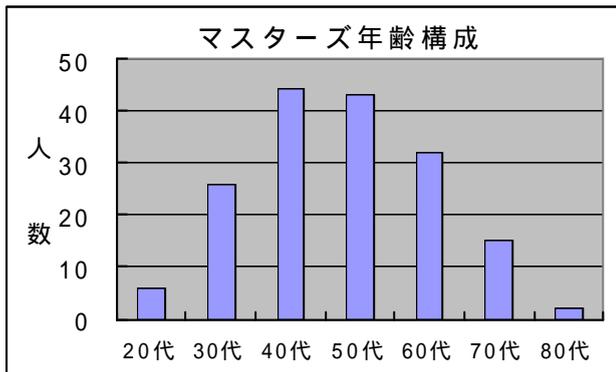


事務局便り

会員動向

事務局 大島 尚

会員動向について、ご報告申し上げます。
現在、会員数は170名(5月末までの入会申込書受付分)。平均年齢は51.5才。最年長83歳、最年少は21歳でした。年齢構成は下のグラフの通りです。



また、メールアドレスの記載があった方は31名でした。今後、マスターズの発展のためには、会員数の増大が必要です。よろしくお祈いします。連絡手段としてメールを活用していきたいと、携帯電話のアドレスでも、結構ですので、お持ちの方は、事務局(大島)まで、連絡頂きたくよろしくお祈いします。(masic2@ja2.so-net.ne.jp)

編集後記

先日、通勤電車の広告(受験予備校「日能研」)に早実中等部の入試に以下のような問題が掲げてありました。

「近い将来、日本の総人口は減少に転じると言われている。その理由として一人の女性が一生の間に生む子供の数(合計特殊出生率)が1950年は3.65人、2000年は1.36人となっているからだと言われています。では、どのような社会にすれば女性が安心して子供を生める環境になりますか。あなたの考えを書きなさい。」

私はこれを見て、3つのことに考え至った。

知識(左脳)でなく、考えの筋道(右脳)を問ういい問題である。

私自身、正解(?)は、わからない。

「スコーレ・マスターズ」で、男性も家庭教育を学ぶことは大切なことであると。(桑折)

HPとメール網の構想

事務局・研修委員 藤田 和弘

『インターネット白書 2003』によると、日本のインターネット人口は5,600万人を超えたようです。ほぼ二人に一人がwebなどインターネットを利用していることとなります。スコーレ・マスターズ会員のみならず、仕事で、家庭で、webや、E-mailを活用されている方が多いのではないのでしょうか。マスターズ事務局でも、このインターネットの利点である即時性、同時性を大いに活用していきたいと考えております。会員への情報発信源としてメーリングリスト/ホームページ構築等により、会員間相互の連携促進にお役に立てるようなシステムについて検討を始めました。具体的には、これまで首都圏中心に偏りがちな行事(生きがい講座)などを中心に、それらの内容紹介等、時空間を超えた情報として、全国のメンバーのみならずがご利用できる環境を検討して参ります。どうぞ、ご期待ください。(fujita_kazu@schole.ddo.jp)



＝入会をお勧めします＝

スコーレ・マスターズでは新しい会員を募集しています。
お問合せ先：
下記スコーレ家庭教育振興協会事務局へ電話またはホームページに記載されているEメールにてお問合せ下さい。本紙を配布した責任者にお問合せいただいても結構です。

編集：社団法人スコーレ家庭教育振興協会
スコーレ・マスターズ 広報委員会
発行人：三橋克興

(k-mihasi@theia.ocn.ne.jp)

〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12

TEL042-728-7951 <http://www.schole.org>